

阿南町社会福祉協議会

第145号

まめだかな？

長野県下伊那郡阿南町西條 709 「おげんきサルビアの郷」内
TEL (0260) 22 - 3151



五平餅会

目次

- グループホームまめだかな『五平餅会』の写真 1
- グループホームまめだかな通信 2
- デイサービスセンターサルビア通信 3
- 阿南町社会福祉協議会「決算状況」、「組織図」 4
- 阿南町ボランティアセンター運営委員紹介、フォトエール 5
- フードドライブ、マスクプロジェクト 6

グループホームまめだかな通信

「懐かしいにおいがするねえ」

皆さんにとって懐かしい「におい」とはどんな匂いですか？ お家において、お母さんの作ってくれた卵焼きのにおい、よく食べていたお菓子の匂い、せつけんの香り、仕事終わりのお父さんの足の臭い：汗 色々なおいが思い浮かんでくると思います。

五月上旬。まめだかなでは五平餅会を行いました。コロナ感染予防のため三月から予定し



外の景色見ながら…
おいしいなあ

うん！
おいしそうに
焼けてる

ていた家族会やお花見会など行事

を中止し、外出を控える日々が続いていました。気分転換、お楽しみも含め、テラスに出て外の心地よい風にあたりながら五平餅を焼きました。焼き始めて、くるみ味噌の香ばしい匂いがしてきたとき「懐かしい匂いがするねえ」と、うつすら涙を浮かべたような表情で話される方がいました。五平餅が焼けていく様子をやさしく見守りながら待つことしばらく…。五平餅が焼き上がりに手元に届くと、顔をくしゃくしゃにして大きな口を開けてかぶりつかれていました。「おいしいよ！」「うまく焼けてるよ」と声をかけてくれました。一本食べ終わると、次に焼けるのが待ち遠しかったのか「もっと食べたい」なんて声もありました。まめだかな施設裏で



取れた山椒の葉も刻み味噌に入れ山椒味噌も焼きました。皆さん食が進み、ほんどの方が二本の五平餅をたいらげました。(あっぱれ！) 五平餅以外にもウインナーはんぺん、ナスじゃがいもなどの食べやすい食材も用意、炭火を囲んでおしゃべりしながらお腹いっぱい食べるこ

とができました。「大勢人が集まった時に焼いたなあ…」「山椒の葉が取れるころだったかなあ？」「ごちそうだったねえ」と話が盛り上がり、嗅覚や味覚を通して利用者さんそれぞれの懐かしい記憶をたどることができたのではないかと感じました。

いよいよ夏がはじまります。利用者様はじめ職員一同、猛暑、コロナに負けずに一丸となって楽しい思い出を作っていこうと計画中です！

早野友美子



まめだかな新職員紹介 遠山雅士

他職場での経験を生かして、ご利用者様と関わってまいります。その人らしい生活が送れ、日々安心して過ごせるように、努めてまいります。

また、ご利用者様、家族様の思い、気持ちに寄り添える介護職員になりたいです。まだまだ不慣れな所がありますが、よろしくお願致します。



サルビアの玄関先でマスクと検温のチェックをしています

今年の一月以降、サルビアでは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取り組みを実施してきました。お迎え時の検温、利用時のマスク着用、うがい、手洗い、手指消毒、県境を跨いだ往來の自粛等、ご利用者様やご家族様等に多大なるご理解とご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



使わせていただいております

また、阿南町ボランティアセンターより、地域のボランティアの皆様が手作りされたマスクを頂戴し、利用者様にお配りさせていただきました。色とりどりのマスクで利用者様の口元が華やかになっています。心よりお礼申し上げます。



利用者様にも手指消毒のお願いをしています

おかげさまで、今のところサルビアでは感染者の発生はなく、ご利用いただけています。今後も、第二波、第三波に備えて、日常生活においても、県外等への往來時においても、基本的な感染症予防策を徹底していただく事等の対応を継続させていただきます。これからも新しい生活様式を取り入れながらも、皆様に安心してご利用いただけるよう、職員一同、気を引き締めて対応させていただきます。今後ともデイサービスセンターサルビアを



ゴンさんもマスク着用です



消毒液はいつも携帯

ご利用いただきますよう、お願い致します。

三鈿 純也

令和元年度 決算状況

■令和元年度 資金収支

	収 入	支 出	収支差額
サルビアの郷	226,911,757	249,590,252	▲ 22,678,495
下瀬しあわせ村	27,674,340	28,293,867	▲ 619,527
和合福祉村	23,859,495	20,426,312	3,433,183
合 計	278,445,592	298,310,431	▲ 19,864,839

■令和元年度 事業活動

	収 入	支 出	収支差額
サルビアの郷	226,145,531	225,921,176	224,355
下瀬しあわせ村	27,651,640	29,795,080	▲ 2,143,440
和合福祉村	23,858,495	20,513,806	3,344,689
合 計	277,655,666	276,230,062	1,425,604

■令和元年度 貸借対照表

資産の部		負債の部	
流動資産	265,316,912	流動負債	192,454,193
固定資産	52,317,530	固定負債	40,823,493
基本財産	3,658,684	負債の部合計	233,277,686
その他固定資産	48,658,846	純資産の部	
		基本金及び基金等	4,698,595
		次期繰越活動増減等	79,657,797
		(うち当期活動増減差額)	▲ 32,156,074
資産の部合計	317,634,442	負債及び純資産の部合計	317,634,442

令和2年度 阿南町社会福祉協議会 組織図

法人運営	会 長	勝 野 一 成	介護保険事業	介護保険課長	林 義 勝
	副 会 長	佐々木 廣 賢		居宅介護支援事業所長	佐々木 由美子
	常務理事兼事務局長	勝 又 修		訪問介護事業所長	平 松 佐代子
	事務局次長兼総務課長	大 平 正 章		和合福祉村所長	成 瀬 節 子
	経理係長兼衛生管理者	松 澤 芳代子		サルビア所長	三 鈺 純 也
	施設管理兼運転業務係長	金 田 壽 光		サルビア係長	佐々木 美 喜
地域福祉事業	地域福祉課長	澤 田 直 樹	まめだかな係長	中 村 美 幸	
	地域福祉係長	清 水 雄 大			
	ボランティアセンター長	宮 島 利 広			

令和2年8月1日現在

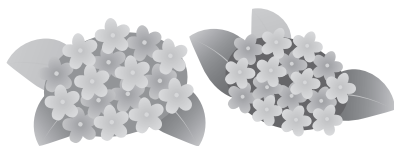
ボランティアセンター通信

ボランティアセンター

地域のボランティア活動の推進を目的に、ボランティアセンターを一新しました。新たにセンターの運営委員を設置し、委員の皆さんと連携し誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を目指します。

【運営委員の紹介】

藤澤 徳夫
坂巻 美智子
熊谷 充子
杉本 文良
金田 和弘
上山 真由
村上 哲
城山 真由
宮島 利広



写真でエールを送ろう！

フォトエール！

写真募集中♪

《コロナに負けるな！第2弾！》

新型コロナウイルス感染予防のため、様々な行事が縮小や延期、中止となり、三密を避けるようになりました。命を守るために大切な行動ですが、少し寂しいと感じる世の中です。

でもこのような困難な状況のもとで、それぞれができることをがんばって生活しています。

「こんな時だからこそ、お互いがんばろう！」

そんなエールをみんなで送り合いませんか？直接は言えないけど、『写真』を通じて繋がろう！

募集する写真のテーマ

- ◎感染対策に取り組んでいる写真
- ◎心がほっこり、笑顔になるような写真



応募方法

メール、USB データ持込み、プリントアウト持込み

【氏名、住所、電話番号、撮影場所、コメント、写真のタイトルを記載してください】

※応募写真は1人2点まで

※募集期間は7月1日～8月20日です

※ご応募いただいた写真は、町民の皆さんがご覧になれるようケーブルTVやホームページでの掲載を予定しています。個人情報にはご注意ください。

応募先・お問合せ先

○阿南町ボランティアセンター（阿南町社協内） 阿南町西條 709

担当：清水 TEL：22-3151 Mail：tiiki@anansyakyu.or.jp

○阿南町公民館 阿南町東條 58-1

担当：最賀 TEL：22-2270 Mail：kyouiku@town.anan.nagano.jp

「もったいない」を「ありがとう」に♪

助け合いフードドライブ



困窮家庭への支援食糧の募集を行ったところ、町民の皆様より、ご家庭で余っているという食糧寄付をたくさんいただきました。

【いただいた食糧】

お米（精米した米・粳つき米・2019年産米・2018年産米）、卵、レトルトカレー、魚缶詰、スープの素、ふりかけ、乾麺、焼き海苔、お好み焼き粉、野菜飲料など

いただいた食糧は、町内で支援を必要としている家庭やまいさば飯田、長野県社協に提供させていただきました。まいさば飯田と長野県社協から、各支援団体や子ども食堂運営団体、フードバンク信州に送られます。



阿南町社協ボランティアセンターでは、困窮者支援のために、引き続き、ご家庭で余っている食べ物を募集しています。ご協力をよろしくお願いいたします。

現在の生活において食糧が不足しているご家庭はご連絡ください。食料をお届けいたします。

みんなで作ろう!

マスクプロジェクト現状報告



感染予防のために各地でマスクが不足していたことを受けて、4月から始まった手作りマスクプロジェクト。

町内外より50名以上のボランティアの皆さんにご協力いただき、これまで1,200枚を超える手づくりマスクを必要な方にお届けすることができました。



手づくりマスクをお届けしたのは、町内の小中学校、保育園、高齢者・障害者福祉施設、診療所とコロナ禍で大きな影響を受けた方にお渡ししました。また、役場・出張所、診療所にマスクを入れた箱を設置させていただきました。ご自由にお取りください。

プロジェクト中にはマスク作りに活用して欲しいと、布や耳ゴムもたくさん寄贈いただきました。ありがとうございます。

お届けした学校からは子どもたちや先生方からボランティアさんへの感謝のメッセージが寄せられました。

「感染症にかからないように、感染症をうつさないように」と願いを込めて作ったマスクは町民の皆さんに広く活用されています。ご協力ありがとうございます。ボランティアの皆様には引き続き、できる範囲で作成のご協力をお願いします。

